

横浜市泉区更生保護だより

明るい社会

令和5(2023)年 2月

編集・発行
 横浜市泉区更生保護協会
 会長(区長) 深川 敦子
 横浜市泉保護司会
 会長 内藤 光雄
 横浜市泉区更生保護女性会
 会長 市川 千栄子
 〒245-0023
 横浜市泉区和泉中央南5-4-13
 泉区社会福祉協議会内
 電話 045-802-2150
 FAX 045-804-6042

「安全に安心して暮らせる地域を目指して」



泉保護司会・泉区更生保護女性会の皆様には、日ごろからの更生保護活動や犯罪・非行防止活動をはじめ、青少年の健全育成、子育て支援など多くの活動に取り組まれていますことに、心から感謝申し上げます。

児童や高齢者を狙った犯罪が後を絶たない中で、誰もが安心して暮らせる安全なまちづくりがより一層求められています。一方で罪を犯し、その後立ち直ろうと努力する人を支援していくこともまた重要であり、そのためには身近な地域で支え合い、助け合える環境が必要です。

新型コロナウイルス感染症により、地域活動の多くが影響を受けてきましたが、今年は皆様の御協力のもと、3年ぶりに「社会を明るくする運動」の街頭啓発や泉区集会を実施しました。また、ポスターの展示や横浜刑務所による矯正広報等を内容とした「啓発展」を泉区役所で開催するなど、地域での更生保護に関する取組は、これまでの姿に戻りつつあります。

泉区役所といたしましても、心豊かに生きられる「明るい社会、泉区」の実現に向けて、自治会・町内会をはじめ様々な団体と連携・協働し、地域のつながりづくりを進めてまいります。

今後さらに、安心・安全なまちづくりを進めていくために、地域の皆様一人ひとりの御理解とお力添えをお願いいたします。

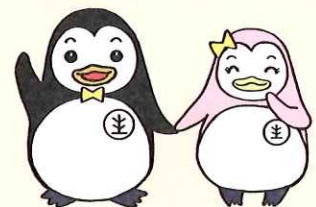


泉区長 深川 敦子

更生保護とは

犯してしまった罪をつぐない、社会の一員として立ち直ろうとするには、本人の強い意志や行政機関の働き掛けのみならず、地域社会の理解と協力が不可欠です。

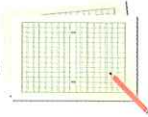
保護司、更生保護施設を始めとする更生保護ボランティアと呼ばれる人たちの他、更生保護への理解と協力の下、関係機関・団体との幅広い連携によって更生保護は推進されています。



もくじ

- P1. _____ 区長あいさつ
- P2.3.4. _____ 『社会を明るくする運動』作文コンテスト受賞作品紹介
- P5.6.7. _____ 活動紹介
- P8.9.10.11. _____ 関係機関、退任、新任ごあいさつ
- P12. _____ 表彰、協力お礼

社会を明るくする運動作文コンテスト



「寄り添う心」

横浜市立岡津小学校 6年 八木 華凜

非行や犯罪が起こる背景は様々ですが、一つに家庭環境が影響しているということを知っています。

それは、経済的に裕福とかそうではないということではなく、家族がお互いの気持ちに寄り添え合えるかどうかということです。嬉しさ、悲しさ、怒りなど私達は日々色々な感情を感じながら生活しています。この感情を一番身近である家族が共感してくれたら、それが嬉しいことであればさらに嬉しくなるし、悲しいことであれば「共に悲しんでくれる人がいる。」という安心感が得られます。また、怒りの感情も「それは腹が立つよね。」などと言ってもらえるだけでも怒りが収まり心が安定することもあります。家族がお互いにこのような関係である中で過ごしていれば自然に学校の友達や周囲の人達にも同じように接することが出来ると思います。

私は最近、母と意見の違いなどでケンカをすることが増えました。その時はものすごく腹が立ちます。でも、このことを友達に話すと必ず「分かる」とか、「私も一緒だよ。」などと言ってくれます。これだけで、いつの間にか笑い話になっていたり、また母とケンカをくり返しても、「母を傷つけるような悪い行動をしよう。」などとは思いません。それは、その時はその場の感情でお互いにひどい言葉を投げ合っても、何かあった時には気持ちに寄り添って「自分のことを大切に思ってくれる存在」ということが分かっているからです。そしてそれは、幼い頃からこのような環境にいたからだと思います。

反対に、この感情を全く共感されないような環境で過ごしていたら、例えば、「嬉しい」という明るい感情は暗くなり、「悲しい」であれば「誰も悲しんでくれない。」という「孤独」を感じ「怒り」は「誰も理解してくれない。」と怒りが収まりきれずに周囲にも攻撃的な気持ちを向けるようになり、このことがエスカレートしていくことで、自分なんてどうなってもいいと投げやりな行動をし、それがやがて非行や犯罪につながっていくのだと思います。

私はこの作文を書くまで、気持ちに共感してくれる友達、家族がいることが当たり前のことだと感じていました。そして、非行とか犯罪と聞いても、「どうしてこんなひどい行動をするのだろう」としか考えられませんでした。しかし、当然自分の当たり前が、当たり前ではない環境の人にもいるのだということに改めて気づかされました。もしも、友達でこのような人がいたら、犯した行動を責めるのではなく、その人の置かれていた環境に目を向け、「辛い」や「寂しい」という気持ちをしっかり受け止めてあげたいです。お互いがお互いの事情を認め合い受け入れられる社会になること、簡単なことではありませんが、私はそうあるように願います。



「誹謗中傷をなくすために」

横浜市立岡津小学校 6年 眞田 結羽

みなさんは、「誹謗中傷」という言葉を知っていますか？誹謗中傷とは、特定の人に対して、言葉で侮辱や、嫌がらせをしたり、デマやうそを触れ回ったりすることです。

私は最近、よくテレビや SNS で「誹謗中傷」という言葉を聞くようになりました。そのときは何とも思わなかったけれど、ある日自分の好きな SNS 活動をしている人が、誹謗中傷に合っていて、とてもびっくりしました。コメント欄のところを見てみると、様々なひどいコメントや本人が見て傷つく言葉やファンの方などが見たら嫌な気持ちに

なる内容がたくさん書かれていました。例えば「死ぬ」や「消えろ」などと、ひどいコメントばかりでした。その人が動画や文で謝罪していても「どうせうそだろ。」や「今頃、謝っても無駄でしょ。」などとコメント欄はとでもあれていました。本人しか本当のことは分からないのに、決めつけるようなことや、無責任なコメントをたくさん書いているのを読んで自分も悲しい気持ちになりました。

このようなことが最近たくさん起きていて誹謗中傷が原因で自殺をしてしまう人も少なくはないのです。もしも誹謗中傷がなかったら、もしも無くすことができたなら、みんなが良い気持ちで SNS を利用することが出来るようになり、大切な命が救えるかもしれない。一人一人が良い気持ちになれば、明るい社会にもつながることが出来るのでは、と思います。だから少しでも誹謗中傷を無くすために私たちが出来ることを考えてみました。

まず、言っている事とダメな事を考える。私は以前、相手が傷つくようなことを言って家族や友達とケンカしてしまっただけではありません。ケンカの後、思い返して自分の言ってしまったことにとっても後悔しました。最後は謝って仲直りしたけれど、言う前に言葉を選ぶことはとても大切なんだなと思いました。次に、その人の悪いところを見つけるのではなく、良いところを見つける。悪いところばかり見ていると、その人の印象は良くなりません。でもきっと、その人の良いところもたくさんあると思います。だから、その人の良いところをたくさん見つけることが大切だと思います。三つ目は言われた側の気持ちを考える。自分では気が付かなくても、相手にとっては傷つく言葉だったり嫌な気持ちにさせてしまうことがあります。だからそうさせないために、言われた側の気持ちになって話すことが大切だと思います。

それでも、もし私が誹謗中傷を受けたら、顔も分からない人にひどい事を言われたら傷つき、嫌な気持ちになります。言いたい事があるなら直接言ってほしいと思います。ネットや SNS で悪口を言うことは、簡単かもしれませんが、直接相手の顔を見たら言えなかったり、言ってはいけないことだなと人は感じると思います。それが最近のコロナ禍では、当たり前のように顔を合わせる事が難しくなり、パソコンやスマホを使っただけの会話が多くなっています。ネットだけでは、その人の一部分しか分からないと思います。やはり人は直接会って会話をすることが大切なことだと思うし、私自身も会って話す方が楽しい気持ちになります。まだ以前のように直接会って話すことは難しいかもしれないけれど、ネットや SNS ばかり夢中になって、相手の気持ちを考えなくなるのではなく、そこにも人としての思いやりを持ってたくさんの人とつながっていくことが大切だと思います。それが社会を明るくすることにつながっていくと思います。



「言葉が凶器にならないように」

横浜市立中和田中学校 1年 神保 瑠希

みなさんは『人を傷つけるもの』と言われたら、何が思い浮かびますか？ナイフ、手や足、他に色々があるとありますが、私が一番に思い浮かべたのが『言葉』でした。

私は『強い人なら何を言われても大丈夫』そう、前まで思いこんでいました。小学生の頃、頭が良くて、運動できて、話し上手な友達がありました。何を言われても笑ってネタにできる強い子だとみんなは、そのことをいじったり、妬んで陰口をたくさん言っていました。その時から『強い人は悪口を言われても大丈夫』とっていました。

私も中学生になり、悪口を言われるようになりました。世の中には沢山の人がいるので、自分のことをよく思わない人もいます。だからといって、悪口や誹謗中傷をするのは良くないし、どんなに気にしない性格でも、どんなにその人の精神が強くてどんな理由があっても、言葉で傷つけるのはいけないことだと思います。

私はどうしても自分の容姿や性格が好きになることができなくて、今まで「二重だったら可愛い」「運動できた

らよかったのに」などと言われてきました。この言葉を言ってきた人達の中では、悪気はなく純粋に思っている人もいます。先生や友達に「悪口言われても気にしなそう」「メンタル強そう」と言われてきました。ですが、悪口を言われたら、すごく気にしてしまうし、メンタルなんて、自分の思っている以上に弱いです。期待されて、自分に期待して、どんなに頑張っても思うようにいなくて、大丈夫だと思い込んで、傷つくことがあっても誰かに相談できなくしている。小学校で出会ったあの子も、陰で泣いていたのかもしれないし、相談できなかったかもしれません。そうやって気づかないうちに人は人を何気ない一言で傷つけてしまっているのではないのでしょうか？

人によって、言葉が凶器となる基準が変わってくると思います。死ななければいいんですか？本人に伝わらなければいいんですか？冗談が通じればいいんですか？一度考え直してから発言、発信するだけで何かが変わるかもしれないと思ってほしいです。

「何気ない一言」で誰かの心を傷つけてしまう。最初はいじりだと思って言ってしまう人やそもそも相手が自分にとって気に入らない存在で陰口を言っている人たちが多いと思います。『言葉の凶器』で誰にも相談できずに自らの命を絶とうとしている方に少しでも過ごしやすい社会は、私たちの少しの行動で、作ってイけるはずですよ。

まずは自分の言葉の使い方を見直してみる。このことができれば、未来も明るくなっていくのではないのでしょうか。



小・中学生に、社会を明るくする運動に対する理解を深めてもらうことを目的として、実施しています。765点の応募がありました。

小学校の部

	学校名	学年	氏名	学校名	応募数
最優秀賞 更生保護協会 理事長賞	岡津小学校	6年	八木華凜	飯田北いちょう小学校	0
優秀賞 泉区SS連盟 会長賞	岡津小学校	6年	眞田結羽	和泉小学校	54
優秀賞	岡津小学校	6年	小木田琉衣	新橋小学校	104
優秀賞	岡津小学校	6年	休石美琴	いずみ野小学校	0
優秀賞	岡津小学校	6年	金子海夢	伊勢山小学校	9
優秀賞	和泉小学校	6年	原田菜花	岡津小学校	90
優秀賞	和泉小学校	6年	夏井璃奈	上飯田小学校	7
優秀賞	新橋小学校	6年	齋藤航大	葛野小学校	6
優秀賞	緑園学園	6年	児玉蒼空	下和泉小学校	0
優秀賞	緑園学園	6年	関まひろ	中田小学校	22
				中和田小学校	1
				中和田南小学校	4
				西が岡小学校	0
				東中田小学校	15
				緑園学園(前期)	109
				合計	421

中学校の部

	学校名	学年	氏名	学校名	応募数
最優秀賞	中和田中学校	1年	神保瑠希	泉が丘中学校	1
優秀賞	中和田中学校	1年	常盤駿太	いずみ野中学校	11
優秀賞	中和田中学校	1年	松井咲幸	岡津中学校	3
優秀賞	中和田中学校	1年	住吉俊朗	上飯田中学校	3
優秀賞	中和田中学校	1年	本瀬理桜	中田中学校	10
優秀賞	岡津中学校	1年	芦野芽衣	中和田中学校	257
優秀賞	領家中学校	2年	藤田環那	領家中学校	15
優秀賞	汲沢中学校	1年	佐々木愛来	汲沢中学校	12
優秀賞	汲沢中学校	1年	山本茉侖	緑園学園(後期)	32
優秀賞	緑園学園	8年	大倉遼真	合計	344

小学校15校421点
中学校9校344点
合計24校765点

第72回社会を明るくする運動

第72回 “社会を明るくする運動”

～犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ～

“社会を明るくする運動”は、すべての国民が、犯罪や非行の防止と立ち直りについて理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、明るい地域社会を築くための全国的な運動です。

犯罪や非行の背景には、望まない孤独や社会的孤立など、社会における様々な“生きづらさ”が存在していることが少なくありません。安全に安心して暮らしていきたいという誰もが抱く願いは、この“生きづらさ”に寄り添う草の根の活動、そして、人と人との支えあうコミュニティを通じて実現されていきます。

犯罪や非行の防止と立ち直り支援は、国や地方公共団体が一体となって推進していくとともに、保護司をはじめとする民間協力者、そして、地域の多くの方々の御理解と御協力をいただきながら、社会全体で取り組むことが大切です。“生きづらさ”を抱える人、再出発を図ろうとする人の誰もが社会に受け入れられるよう、分野を超えて、それぞれの立場で創意工夫を凝らしていただきながら、包摂的な社会を実現してまいりましょう。

国民の皆様には、「社会を明るくする運動」の社会的意義を御理解いただき、犯罪のない明るい地域社会づくりに取り組む決意のしるしである「幸福の黄色い羽根」のもと、本運動に御参加いただきますよう御協力をお願いいたします。

内閣総理大臣 岸田文雄

学校と保護司会・更生保護女性会の連携

保護司会・更生保護女性会は学校と連携を取りながら行っている活動があります。

中学校の生徒指導専任教諭との懇談会です。今年度も6月28日に実施しました。「中学校生徒指導専任教諭と保護司・更生保護女性会との連携について」というテーマで社会を明るくする運動の作文や街頭啓発での中学生ボランティアの参加について意見交換しました。



泉区集会

コロナウイルス感染症予防の観点から縮小しての開催となりました。令和4年7月22日（金）14時から16時まで。泉区役所4階ABC会議室で民生児童委員、PTA、更生保護女性会、等各団体のご協力のもと総勢100名ほどの方に泉警察署生活安全課の岡高志氏の「特殊詐欺の現状と青少年が関係するネット犯罪、少年法の改正について」の講演を聴講頂きました。

特殊詐欺の被害実態や、青少年がネット犯罪に巻き込まれないように注意の必要なことを実感しました。



街頭啓発活動

「社会を明るくする運動」を6月30日と7月1日の2日間猛暑の中、5か所での街頭啓発活動を計画し、4ヶ所で実施いたしました。イトーヨーカドー前には区長をはじめ、更女の方、民生児童委員、自治会の方々等の参加をいただき実施いたしました。参加された皆様ありがとうございました！暑さが年々厳しくなっている中での開催に改善の必要性が感じられました。



啓発展の開催

7月12日(火)～15(金)に区民ホールで「社会を明るくする運動 啓発展」を開催しました。ポスター・パネル展示や動画上映、横浜刑務所デジタルサイネージの紹介のほか、横浜泉ライオンズクラブ、横浜泉ロータリークラブ、泉防犯協会、泉企業防犯連絡会からの啓発展示などを行いました。また、同日程では矯正展もあわせて開催。乾麺や布製品など売れ筋商品を中心にした品ぞろえで、多くの方が商品を手にとり関心を持たれていました。



泉区民ふれあいまつり

11月3日(木) 青空のもと、新型コロナウイルス対策実施の中で、3年ぶりに開催されました。保護司会は、更生保護活動への理解を深めて頂こうとの意味を込め、啓発グッズの配布を行いました。更生保護女性会は、手作りのお汁粉の販売とバザーの出店を行いました。バザー品につきましては、会員の皆様からのご協力品と併せキャピック製品を販売いたしました。皆様のご支援のお陰で有意義な啓発活動を行うことができました。



施設見学

コロナ禍で3年間、施設見学が出来なかったが、令和4年11月25日(金)快晴に恵まれた当日午後1時から4時まで、更女の役員、内藤会長以下保護司の合計21名で、治安の最前線で活躍する警察官の養成所であり、横浜市栄区所在の神奈川県警察学校を見学し、厳しい訓練状況等をつぶさに体験し、なおかつ被害者の立場に立った我々の更生活動にも役立てようと、県警察被害者支援室の担当者からの講演も聞き、今後の更生活動に生かせる貴重な施設見学となりました。



横浜市更生保護女性会Bブロック研修

3年ぶりに台風一過秋晴れの中、瀬谷区役所にて開催され参加することが出来た。「地域で支える更生保護」と題し横浜保護観察所民間活動支援専門官 石川周治先生の講演から始まり、コロナ禍で少年事件も減ってきているとのことには意外だった。半面引きこもりが増えているとの事、少年犯罪の中でも窃盗、覚せい剤、オレオレ詐欺が多い事に、改めて経済的な問題や支援の必要性を感じた。第2部は、横浜市西部児童相談所緒方順平先生による「ジソウの子供たち」。母親から虐待を受けた17歳の少年A君の話、実際の体験談を聞き、後にA君が言った言葉「お母さんを支えてくれる人がいたらよかった。」胸が締め付けられる思いがした。そんなA君を気に掛けてくれた近所のおばさんもいたが、支援に繋がらなかった。私たちは地域という小規模の中にいることで自分の問題として考える事が出来、地域団体との連携を密にして一体になって考えて行けないいろいろな面で考える事の多い講演でした。



更生保護女性会とは…

女性の立場から、地域における犯罪予防の活動や子どもたちの健全育成のための子育て支援活動などを行うボランティアです。現在泉区では168人が活動しています。



更生保護の伝統を大切に

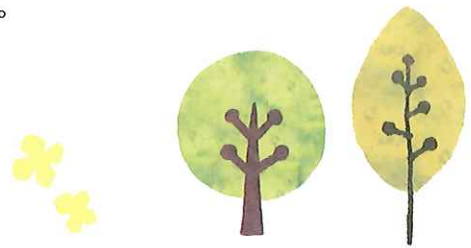


泉区の皆様、横浜保護観察所は、県内の更生保護の行政を担当する国の役所です。

更生保護は犯罪者や非行少年の再犯の防止やそのための地域活動を行っておりますが、実質的には、保護司や更生保護女性会員に多くを担っていただいています。このような更生保護ボランティアは、国民の自発的な活動から始まり、戦後制度化されたものですが、多くの方が関わり、意欲的に活動しているのは日本固有のことで、世界からうらやましがられる体制となっています。

横浜保護観察所長 **勝田 聡**

更生保護は地域での実践ですので、ボランティア以外の多くの関係者の方の御協力をいただいております。自治体、雇用主、学校などの関係者の皆様に、この場を借りて感謝申し上げますとともに、この良き伝統を守るため、引き続き、区民の皆様の御理解と御協力をお願いいたします。



地域社会の理解と協力を求めて



泉保護司会、泉区更生保護女性会の皆様には、日頃から更生保護活動はもとより、泉警察署の運営各般にわたり御支援・御協力をいただき

感謝申し上げます。また、更生保護女性会の皆様には、署内に弛みなく生け花を生けていただき署員や来庁者の目を楽ませさせていただいておりますことに対し衷心よりお礼申し上げます。警察署に入ると生け花が目に入り、気持ちが和やかになると共に、季節の移ろいをここでも感じ取ることができ署員は幸せであります。また、署員の中には、生け花の前で足を止め、スマートフォンにその優雅さを収めている者も数多くおり、今や署員の楽しみの一つにもなっております。先日、女性部会の方が插花されている折、お話をする機会があり、皆さんの大らかさ、優しさというものを生け花と共に感じ取ることができ感動しました。

さて、昨年（令和三年版）の「犯罪白書」によると、令和二年刑法犯で検挙された人の再犯者率は過去最高の四十九・一パーセントという数字が出ています。これは、新型コロナウイルスの

泉警察署長 **甲斐 次幸**

感染拡大に伴い刑務所等からの出所者の雇用状況の悪化も影響していると言われております。このような社会情勢の中、求められることは地域社会の支援であります。犯してしまった罪をつぐない、社会の一員として立ち直ろうとするには、行政機関の働き掛けはもとより、地域社会の理解と協力が今後より一層求められることは言うまでもありません。泉区には、数多くの自治会・町内会をはじめ地域の強いネットワークが存在し、行政機関との関係も強固なものがあり大変心強く感じているところでございます。

泉警察署といたしましても、全署員心を一つにして、地域の皆さんと手を携え、明るい社会の実現に向け警察活動を積極的に推進してまいりますので皆さんの御協力をお願い申し上げます。



綺麗な生け花、ありがとうございます

明るい社会を目指して



泉保護司会、泉区更生保護女性会の皆様には、日頃から「社会を明るくする運動」等にご活躍を賜り感謝申し上げます。

この3年間は、新型コロナウイルス感染症の影響で、人と人とのふれあいが出来にくい状況が長く続き、各種活動にも大きく影響されてきました。

私ども社会福祉協議会は、誰もが安心して、自分らしく暮らせる社会を、みんなで作ろうと合言葉に、地域の皆様のご協力とご支援をいただき

泉区社会福祉協議会会長 貝沼 貞夫

活動しています。

昨年に引き続き、感染症で生活に影響が出ている世帯を対象に食支援を実施し、多くの企業や区民の皆様の温かいご寄附の食料品や生活雑貨をお渡しさせていただきました。

近年、各種犯罪、特に特殊詐欺など一段と巧妙になって来ていますので、地域の連携を深め、誰もが安心して、明るく笑いあえるような「明るい社会」の実現に向けて協力し支え合っていきたいと思っています。



犯罪の無い社会と「住むなら泉区」の実現に向けて



泉保護司会、泉区更生保護女性会の皆様には、日頃より立ち直りを支える更生保護活動をはじめ、青少年の健全

育成や子育て支援などの活動に尽力いただき、心から感謝申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症の発症により、様々な地域活動に影響を及ぼしておりますが、このところ地域活動も徐々に再開されてきました。しかしながら、11月に入って第8波が予測されて

泉区連合自治会町内会長会会長 馬場 勝己

おりますし、感染者も増えている状況ですので十分注意が必要です。一日も早い終息を願って止みません。

泉区連合自治会町内会長会では、行政をはじめ各自治会町内会や各種団体と連携・協働して犯罪の無い泉区の実現と「住むなら泉区」を目指して取り組んで参ります。皆様方のご協力、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

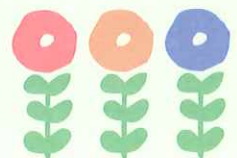


空いた時間で保護司のボランティア活動をお願いします！

泉保護司会では現役で仕事の方、リタイヤされた方で30歳代の方から76歳迄の25名で活動しています。

保護司の活動は2つで一つは保護観察対象者との月2回の面接、二つ目は非行や犯罪に至らない為の社会を明るくする運動です。面接場所は近くの公的施設をお借りすることが出来、実際に利用している保護司が多くいます。面接は保護司と対象者の都合の良い日程でやっていて、この面接が一番の活動です。

詳細は月1回のサポートセンター（第4週の木曜日）でご説明させていただきますと思います。この件のお問い合わせは横浜市泉区社会福祉協議会内・保護司会事務局045-802-2150の担当者迄ご連絡願います。ご一緒にボランティアを、お待ちしております！



保護司退任にあたって



昭和63年10月に保護司を拝命して34年間微力ながら令和4年9月30日を持って任期が終了致しました。

保護司にならないかの打診は当時泉区が戸塚区から分区しての初代会長の小山さんからのお話で、私の父親が現役保護司でしたが急逝した為に「父親が亡くなったんだからあんたが保護司を継ぐんだよ」と言われました。

泉保護司会元会長 中丸 定昭

父親が保護司をしているのは知っていましたが、どういう仕事で何をしているのか全く知りませんでした。

「世襲かあ」という気持ちでお引き受けしましたが実際に担当してみて対象者と話をしてみると皆、素直な子で「何でこんな犯罪をしたんだろう?」と思う事もありました。日常生活の友人や仲間達の影響だったのか?

普段の人との付き合いや生活環境がいかに大事か、意志を強く持ち無理をせず楽な気持ちで行こうと思ひ、34年間勤めるに当りご協力頂きました皆様方に深く感謝を申し上げます。



感謝

令和4年3月31日付にて、観察所より任期満了の通知が届きました。

平成に入り、石原会長より両親を通じ、何度も依頼があり、当時泉警察署の少年補導員として少年の健全育成に当たっていた事情もあり、8年5月1日付にて、この任をお受けした。当時泉区内では少年による暴走族関連の事件が多く発生し、対象者と先輩後輩に関連し、その対応に苦勞した事が思い出される。

中学生から80才代まで、多くの事件に対応したが、少年事件で実母から観察所に担当者変更依頼があり、

泉保護司会前会長 安西 和之

協議の結果、観察所扱いとなった件があり、対応等に反省したが、その後何度も事件を起し、少年院に入り、退院後は実父の居住する川崎方面に転居したとの事、今でも心に残る事件であった。

26年間の活動で感じる事は少年、成人共各々の事情があるとしても、早期に対応し、協議を重ね、その結果、約束したルールを守る事が大切なのかと思う。

大過なくゴール出来たのも、観察所を始め仲間の先生、女性会の皆様、家族、そして多くの関係者の皆様のご指導、ご協力、ご支援の賜物と深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

保護司活動を通じて

小島 貴美子

寿町でのボランティア活動を通じて、「生きづらさ」を抱えた人が犯罪に関わってしまう、あるいは、犯罪を重ねてしまう状況を目の当たりにして、私にできることはないかと、司法と福祉の繋がりに関心を持っていました。

そんな中、仕事仲間から、社会福祉士会のHPに「保護司活動へのお誘い」が掲載されていることを教えてもらい、活動に参加させていただきました。

「反省は一人でもできるが、更生は一人ではできない」。

勿論、「いきづらさ」を抱えた本人の意志が重要ですが、それをフォローするため、様々な方向からのアプローチが必要と考えます。

本人との限られた時間の中で、その人らしく安定した生活を続けるためには、周りにある社会資源等を活用し、本人と対話を続けることが結果的に「更生保護」となり「再犯防止」につながると強く感じています。



保護司任命の きっかけと活動の思い



玉熊 秀義

バイト先にいらしていた保護司の先輩より、声をかけていただいたのがきっかけで、保護司そのものも更生保護も何も認識ない状態でのお話であり、自分は務まらないと思いましたが、仲間や人の為に出来る事ないかと思っていた時期でもあり、自分自身の為にもなると思い、前向きに良い方に考えて、やってみようと決断しました。

R2年10月に任命を受け、10日もしないうちに、生活環境調整のお仕事が飛び込んできて、今まで、4名の方とお会い出来て、対象者のお気持ちを聞いてあげるしかないのですが、明るく・前向きな気持ちになり、元気に生活・行動してくれればとの思いで活動しています。自分自身が心身共に健康を心掛け、引続き活動してまいります。

保護司活動のきっかけ



栗田 寛康

明るい社会をご拝読の皆様。はじめまして、令和3年より泉区で保護司をさせていただいております、栗田寛康です。

保護司をさせて頂くことになったきっかけは、泉区内のお寺で勤めていることもあり、泉区仏教会の諸先輩方で保護司をされているご住職からご推薦を頂いたことです。

保護司は「地域のためにさせて頂く活動の一つ」だと感じます。明るい社会を目指すためには個人や家族の思いも大切ですが地域の助け合いも重要です。保護司についてあまりわからず入ったので、先輩方のアドバイスを頂きながら一步一步精進し、若輩者ですが、少しでも保護観察者の社会復帰の力になればと思います。

現時点で泉区の中で一番若い保護司だそうです。どうぞよろしくお願ひします。合掌

保護司になって思うこと



萩原 達也

自分で自分を名付けることはできないし、どの国のどの時代に生まれるかも誰も選べない。「生まれる」というのは徹底して受け身だ。

だからなるべく誰もが同じスタートラインに立てるように社会が仕組みを整えることは大事だ。そして、ひとは「こうすべき」とわかっていても、いつもそのとおりにできるわけではない。迷いもするし、途を踏み外してしまうことだってある。そうした時に再び歩き出せるような支援があることも大切なことだ。どんなひとも、巻き起こるどんな出来事も、この社会のなかにあるということをお忘れずにいたい。ともすれば自分を気に留めるひとなどこの世に誰もいないと思ってしまうような状況にあるとき、「あなたの名を呼ぶ人間がここにいるよ」と告げることにはたとえごくごく小さくとも意味があるだろうと考えている。

保護司として



山 義明

定年退職した年に保護司になりました。先輩の保護司の方からの勧めもあったり、泉区に住んで45年、働いていたのが14年、私の気持ちで

地域貢献や社会貢献について考えたりした中での決断でした。

教職員時代に、家庭裁判所で審判に立ち会う機会や少年院で卒業式をする経験がありました。その時、学校でもっとその子どもに何かできたのではないかと、そして子どものこの姿は見たくないと強く思いました。保護司の経験はまだまだですが、対象者の改善更生に少しでも寄与できればと考えています。

中村天風氏は『人の世のために竭すというのは私心なく誠心誠意人々の協同幸福のために努力すること』と語りました。ここには到底及びませんが、私なりにしっかり対象者に寄り添い、真摯に保護司活動に取り組んでいきたいと思ひます。

保護司になって思うこと



樋口 一弘

近所の方から誘いを受けたのは、定年退職して2年程がたった頃でした。保護司がどのような活動をしているのか全く分からず、渡されたパンフレットを読み、インターネットで調べました。やはり自分には到底できない、いつ断ろうかと考えていました。

けれども、民生委員を務めていた父の様に地域の役に立つことをしたいとの思いがありましたので、保護司を受けることはその機会と思ひ、やってみようと考え直しました。

最後に背中を押したのは妻でした。

何を話すのか自己紹介から始まり伝えるべきことを忘れないようにメモ書き、初めての面接に臨みました。回を重ねるうちに多少気持ちが通じるように感じ、最近では時間変更等の電話をもらえるようになりました。「樋口さん」と呼んで頂いたときは、大変うれしくなりました。担当している方が立ち直ることを、少しでもお手伝い出来たらと思っています。

保護司とは...

罪を犯して保護観察を受けることになった人の生活を見守り、様々な相談にのる他、時に助言も行う更生保護のボランティアで、法務大臣が委嘱します。

泉区では25人の保護司が活動しています。

令和4年度 泉保護司会受彰者(敬称略)

- 全国保護司連盟理事長表彰
内藤 光雄
- 関東地方更生保護委員会委員長表彰
土屋 幸二、小山 孝夫
- 横浜保護観察所長表彰
町田 ふみ子
- 神奈川県保護司会連合会長表彰
山下 昌永
- 横浜市長感謝状
土屋 幸二
- 横浜市会議長感謝状
田中 均
- 横浜市保護司会協議会会長表彰
町田 ふみ子、山下 昌永

令和4年度 泉区更生保護女性会受彰者(敬称略)

- 厚生労働大臣表彰
奥津 倫子
- 横浜保護観察所長感謝状
渡辺 ミヨ、池田 光子
- 神奈川県更生保護女性連盟会長表彰
佐藤 ナツエ、若林 澄子、遠藤 一枝
- 横浜市長感謝状
長尾 美津子、加賀 みね子
- 横浜市会議長感謝状
佐藤 摩理子
- 横浜市更生保護女性連盟会長表彰
辛島 直恵、齋藤 倬子、井上 美由紀
小池 節子、安西 裕子
- 神奈川県知事表彰 (共同募金関係)
一瀬 照美
- 泉区社会福祉功労者表彰
高橋 久子

＊ 令和4年度更生保護協会会費及び助成金 協力お礼 ＊

連合自治会町内会または自治会町内会から、合計931,000円の会費を頂きました。

また、下記団体から合計40,000円の助成金を頂きました。※敬称略

【横浜泉ライオンズクラブ、横浜泉ロータリークラブ、泉防犯協会、泉企業防犯連絡会】

社会を明るくする運動や保護司会・更生保護女性会の活動等に役立たせていただきます。ありがとうございました。



●●●●「明るい社会」編集委員 ●●●●

泉 保 護 司 会		泉 区 更 生 保 護 女 性 会	
会 長	内藤 光雄	会 長	市川 千栄子
副 会 長	神田 文雄	副 会 長	坂本 利恵
	奥津 信義		宮寄 みどり
常 務 理 事	梅田 保彦	広 報 部 長	池田 邦代
	三島 吉夫		



コロナ感染が、3年目となった令和4年は、縮小しながら様々な行事を無事終えることができました。このような中で再犯防止と、ひとりの方の幸せを願いながら、寄り添い活動を続けてこられた保護司の皆様へ寄稿して頂きました。大変ありがとうございました。

(更女 市川)